



みねのぶ

1月号



■発行日/令和7年1月1日/No.1473号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

令和7年の新春にあたり



代表理事組合長
伊藤俊春

令和7年の輝かしい年明けに当たり、組合員皆様方にお祝い申し上げるとともに、平素より、当農協の各事業に対しましても、ご理解を頂戴し、ご利用、ご協力いただきていることにつきましても、あらためてお礼申し上げます。また、昨年、皆様方のご理解のもと、110周年記念式典を始め、各事業を無事に進めさせていただいたことも改めてお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元旦に能登地方を襲つた地震被害に続いて、羽田空港内で起つた、航空機事故など、年頭から、悲惨な事故が起つて、重苦しい感じの年明けでした。その後も、各地で、台風の影響をはじめとした集中豪雨の被害が多発し、地球環境の問題を再認識したところです。温暖化の影響を感じられる年末の大雪も異常さを感じられるところでした。また、

コロナをはじめとする、感染症について、ある程度の落ち着きは見せていますが、なかなか油断できない状況で、それぞれ状況に合わせた対策を継続しながら対応しているところです。しかしながら、インバウンドも増加し、コロナ前の状況に戻りつつあることで、経済が動いていることは、間違ひありません。

ウクライナや中東を始め、世界各地で起きている紛争は、収まる様子が見えない中、長期化し、現地における、悲惨な様相は、言葉に表す事が出来ないものです。一刻も早い解決を期待するものですが、日本もそうですが、アメリカなどの政治の不安定さが、今後どのように影響を与えていくのか、経済の回復を含めて、祈るばかりです。

国内の農政については、四半世纪ぶりに改正された、「食料・農業・農村基本法」ですが、食糧安全保障を重要課題として、基本計画の策定を進めています。世界情勢が不安定な事での、食料をはじめとして、安定的な確保の不安さが見えてきたことで、備蓄、輸入も含めた、自給率、自給力をどうとらえるのか。生産現場の観点からも、しつかりと要望をあげていき、この

地域で今後も農業を継続して出来るよう、労働力、後継者問題や、農地の保全を含めた、農村地域の存続など、JAグループをあげて、しっかりと対応していきます。そのためにも、今年度おこなわれる参議院選挙において、北海道農業者の代表として、東野ひでき君の支援をよろしくお願いするところであります。

昨年の作況については、当初から、猛暑になるという長期予報も出ていて、不安なところからのスタートでしたが、確かに暑さの影響は、一部蔬菜などにありましたが、

米の作況が、南空知で103といふことで、他の作物についても、総じて平年並みからやや良という感じで、悪くない年だったと感じます。

このことは、一昨年の反省をもとに、

今年は、国際協同組合年です。

協同組合の意義、農協の有様など、

今一度見つめなおして、組合員皆様

方とともに、経営の安定、組合の

基盤強化、地域の維持に努めて事

業を進めてまいります。また、干支

で言うと、乙巳（きのとみ）です。

多くの人にとって成長と結実の時

期となる可能性が高い年だそうで

す。これまでの努力や準備が実を

結び始める年になるそうで、素晴らしい年になる事をご祈念し、新

年のご挨拶に代えさせていただき

ます。

作付けについて、当地区においても、増加の希望が出ていますが、生産者自ら価格の安定のために、目安を守ることが必要なので、備蓄等の対応をお願いするところです。

先月行つた、懇談会の中でも、意見をいただきましたが、所得を安定させるために、販売事業の強化を柱として、今年度取り組んだ集荷対策について、一定の評価を得ました。今年度おこなつた結果を踏まえて、次年度については、更に、負担を少なく、安定した経営が出るよう、対策を強化して進めてまいります。

今年は、国際協同組合年です。

協同組合の意義、農協の有様など、

今一度見つめなおして、組合員皆様

方とともに、経営の安定、組合の

基盤強化、地域の維持に努めて事

業を進めてまいります。また、干支

で言うと、乙巳（きのとみ）です。

多くの人にとって成長と結実の時

期となる可能性が高い年だそうで

す。これまでの努力や準備が実を

結び始める年になるそうで、素晴

らしい年になる事をご祈念し、新

年のご挨拶に代えさせていただき

青年部が青年大会を開催

11月26日、JAみねのぶ青年部は当JA大会議室で令和6年度の青年大会を開催しました。

青年部員が自ら興味のある営農に係る事項について年間を通して調査を行う「営農試験調査」の実績を発表した他、情報把握と農政活動として、青年部組織で実施している研修の参加報告や優良生産者の表彰を行いました。

本年度の営農試験調査は、管内の主要品目の他に加わる高収益作物の模索として、「峰延地域における落花生栽培工程の模索と取り組み」をテーマに作業性や収益性の課題について調査した結果を発表しました。

研修の参加報告では、美唄市内三農協合同の青年部組織による九州方面の視察報告を行いました。

優良生産者表彰では、稻作（ななつぼし）の部、麦作（きたほなみ）の部の他、管内で面積が増加している直播水稻（えみまる）の部を新たに設け、各3名の候補者を選出し審査しました。審査員は空知農業改良普及センター職員3名、高田専務、青年部事務局長、

青年部役員3名の皆さんで、審査の結果、稻作（ななつぼし）の部で伊藤克哉さん、麦作（きたほなみ）の部で有ノ木宏哉さん、直播水稻（えみまる）の部で海鉢崇貴さんが表彰されました。

その後、農業振興課の豆野職員から「農業経営とクミカンの関わり」について講演があり、参加した青年部員の皆さんは真剣に聞き入っていました。



J A役職員が
コンプライアンス研修

◎一般職員コンプライアンス研修会
12月3日、当JA会議室で一般

職員を対象にコンプライアンス研修会を開催しました。

講師に日本農業新聞より波多腰氏を招き、新聞事例で学ぶ職場改善についてグルーブワークを中心に行研修を行いました。最後に各グループで提案書を作成し、グループで発表しました。職員は活発な意見をかわし企画書の作成をおこなっていました。

◎役員コンプライアンス研修会
12月10日、当JA会議室でJA役員を対象にコンプライアンス研修会を開催しました。

講師に吉田康紀顧問弁護士を招き、労働訴訟について、金融リスクについての研修を行いました。役員の皆さんは熱心に研修を受けました。

◎管理職員コンプライアンス研修会
12月13日、当JA会議室で管理職員を対象にコンプライアンス研修会を開催しました。

講師にJA北海道中央会 高橋直樹氏を招き、JAみねのぶの歴史の振り返り、職員の行動規範の実践、また、問題発見・問題解決の手法について研修を行いました。

第9回空知地区「ゆめぴりか」コンテストで準グランプリ受賞



当JAは令和2年に開催された第5回空知地区「ゆめぴりか」コンテストで準グランプリを受賞し、4年ぶり2回目の受賞になります。

JAみねのぶとJAきたそらちが準グランプリを受賞しました。

11月1日JAやホクレンなどがつくった連絡協議会が主催する第9回空知地区「ゆめぴりか」コンテストが開催され、空知地区13JAのうち11JAが参加し、審査の結果

令和6年度役員研修を実施

11月11日から11月14日にかけて、九州方面において令和6年度のJA役員研修が行われ、職員を含めた8名が参加しました。



研修先としては、当農協の大豆が取り扱われている「株式会社ふくれん（福岡県）」、北海道米を使用した日本酒製造を行っている「有限会社中野酒造（大分県）」、「株式会社神明（佐賀県）」、九州最大の直売施設である「JA糸島産直市場伊都菜彩（福岡県）」を視察した他、ホクレン福岡支店において意見交換を行いました。

参加した役員からはいずれの視察先でも多くの質問等がなされおり、有意義な研修となりました。

察先でも多くの質問等がなされおり、有意義な研修となりました。

コーポさっぽろのイベントでNPO法人Ef yと

食育体験実施

11月23日、札幌ドームでコーポさっぽろ「食べる・たいせつフェスティバル2024」が開催され、当JAの佐藤販売企画課長とNPO法人Ef yのメンバー6名が参加しました。このイベントは食べることの大切さや環境・くらしだけについて学ぶことを目的としたもので、子供達が様々な体験ができるプログラムが各企業から多数用意され、当JAのブースでは「お米でアイスをつくろう」とまるでアイスづくり体験」という内容で多くの子供達が参加しました。

つて振つて美味しく作れた」といふ声が聞かれ、参加者も抽選となる等賑わいを見せました。

当JAの佐藤課長は「えみまる」という直播品種の紹介と併せてお米の栽培方法や農業も時代とともに変化しているという事が説明出来た。アイスといった美味しい食べられる身近なものから少しだけ話していました。



J Aみねのぶ営農推進協議会「水稻・小麦・大豆」が開催される

11月28日当JA本所3階大會議室で、JAみねのぶ営農推進協議会（営農販売課）主催による「水稻・小麦・大豆営農講習会」を開催しました。



参加した生産者は真剣な表情で講習を受け、活発に質問していました。

参加した生産者は真剣な表情で講習を受け、活発に質問していました。

参加した生産者は真剣な表情で講習を受け、活発に質問していました。

当日は、空知農業改良普及センター地域第二係から3名を講師に招き、管内生産者26名が参加し、振り返り翌年に向けた圃場作りのポイントを講演いただきました。

また、最後に営農販売課横田職員から「栽培履歴から読み取れる傾向値について」説明があり、播種時期に応じた播種粒数の関係性や病害虫防除の実施率と収量の関係性について説明しました。

参加した生産者は真剣な表情で講習を受け、活発に質問していました。

地区別懇談会を実施

12月3日、4日の2日間、JA3階大会議室で、地区別懇談会が開催されました。

3日は峰延・光珠内・峰樺地区、4日は豊葦・上美唄地区、岩見沢市・三笠市地区の組合員の皆さまを対象にご参集いただきました。伊藤組合長の開会挨拶後に、営農販売課から、過去5年の主食用米集荷率と価格について、各調製施設の状況について、令和6年産に係る精算について、玄米ばら集出荷調製施設取扱シミュレーションについて、農業振興課から、令和7年産以降「生産の目安」の取り進め、総務課から、常会開催日の変更について、本部事務所の取壊し及び固定資産の取得計画について、生活店舗今後の運営方針について、金融課から農業者賠償責任共済等の紹介や、営農資材課から農業機械の早期予約取りまとめについて等の紹介をお知らせしました。

JAからの説明後は、組合員の皆様から多くのご質問やご意見、ご要望について質疑応答が行われました。



事例紹介では、当管内のSTA

会議室で美唄市・美唄市教育委員会主催のグリーン・ルネサンス推進事業シンポジウムが開催されました。

4日は豊葦・上美唄地区、岩見沢市・三笠市地区の組合員の皆さまを対象にご参集いただきました。伊藤組合長の開会挨拶後に、営

農販売課から、過去5年の主食用米集荷率と価格について、各調製施設の状況について、令和6年産に係る精算について、玄米ばら集出荷調製施設取扱シミュレーションについて、農業振興課から、令和7年産以降「生産の目安」の取り進め、総務課から、常会開催日の変更について、本部事務所の取壊し及び固定資産の取得計画について、生活店舗今後の運営方針について、金融課から農業者賠償責任共済等の紹介や、営農資材課から農業機械の早期予約取りまとめについて等の紹介をお知らせしました。

JAからの説明後は、組合員の皆様から多くのご質問やご意見、ご要望について質疑応答が行われました。

JAからの説明後は、組合員の皆様から多くのご質問やご意見、ご要望について質疑応答が行われました。



J Aみねのぶ青年部が 第77回通常総会を開催

12月20日午後6時、JAみねのぶ青年部が、当JA大会議室にて、第77回通常総会を開催しました。

荒井副部長による「開会宣言」から始まり、会場全員で「青年部綱領」を朗唱した後、前役員2名（星野功平前部長・橋本康宏前副部長）の表彰が行われました。



提案された議案については、全案可決・承認されました。

その後、今総会の議長に松本浩幸氏が選出され、議事に入りました。幸氏が選出され、議事に入りました。

後日、これらの内容について整理したものをQ&A形式にて皆様にお知らせする予定です。

グリーン・ルネサンス推進事業 シンポジウムが開催される

12月7日、美唄市民会館2階大

会場では、美唄尚栄高校の生徒たちが作つたバスカッピジャムなどの加工品販売が行われたほか、美唄市内の保育園・幼稚園児たちが参加した田植え・稲刈り・脱穀農業体験の様子などの学びや感想を綴つた掲示物がパネルで展示され、来場者たちは子どもたちが制作した資料を真剣な表情で見ていました。

幸氏が選出され、議事に入りました。幸氏が選出され、議事に入りました。

ND BLUE FARM代表で当JA青年部役員の岸本久靖さんが「農業の魅力発信について」の講演を行い、食育が農家に与える影響や「生きる力」の育成について話しました。

会場では、美唄尚栄高校の生徒たちが作つたバスカッピジャムなどの加工品販売が行われたほか、

報德

中庸は実行容易、 孟子は困難



或る儒学者が、「孟子は理解しやすいが、中庸は理解するのが難しい」と言つたのを聞いて、尊徳翁は次のように話された。

言葉の上で理解についてはいざ知らず、日々の仕事や生活の中で、その言葉を活かそうと考える時には、孟子は難しく、中庸は易しいと言える。孟子が自分の書を著した頃は、世の中が乱れて、邪悪な考え方が世の中にはびこつていた。孟子は、各地で自説を説いたが、その考え方は受け入れてもらえなかつた。つまり、自説を実

くなり、人に言いくるめられれば、立派な儒者であると考えているらしい。彼らの考える聖人とは、その程度のものなのである。だが、その考えは間違っている。聖人の責務とは仁を実現する事であり、そのためには五倫、五常を実行していかなければならぬ。決して、言葉で人を打ち負かすことではないし、言いくるめるだけではいけないのである。孟子とはそのように言葉に頼るものであるから、これを実行に移そうとすると、本当に難しいものなのだ。簡単には、

つて難しい事ではない。この様な考え方で進めば、いちいち勉強をしなくとも、仁であり、義であり忠であり、孝でもあるという状態になる。もつと言えば、聖人の行いが実現できる。至つて行いやすい教えるである。

私が行おうとしていることも、中庸の考えに似て、自分の能力の範囲内での生活行動を行い、余力を社会の為に用いることをを目指しております、この状況を仁というのだと説いているのだ。中庸はこのよう実行しやすい考え方なのであ

君たちのように、孟子は易しいと孟子を好む人達は、それが自分の心に合うからなのだ。仁を学ぶのは、仁を実現しようとする心からではなく、またそのために修業を積もうとしているのではなく、単に、言葉遊び的な議論に勝つために、学問を行おうとしているからだ。多くの儒者は、議論が上手

ということや、同じように低い所から始めて高い所へ昇るといふいわば、小さく始めて大きく成遂げるという、誠に実行し易い考え方である。中庸の考え方につつて、百石の収入がある者が、五十五石で生活を賄い、五十石を国家・社会の為に使うということは、至

3. 各種事業の奨励施策の実施について
4. 諸規程等の一部変更について
5. 組合員による持分譲渡の承認について

JA一部業務の臨時休業のお知らせ

日頃から当JAをご利用いただき誠にありがとうございます。

年度末決算棚卸のため下記の通り一部の業務を終日
臨時休業いたします。ご迷惑をお掛けいたしますが、
何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

両手で理解いたしました。よろしくお願いいたします。

記

臨時休業する日 令和7年1月31日（金）
臨時休業の業務
・営農資材店舗
・利用精算所

(IAみわのじ 総務課)

第11回（12月定例）理事会の開催について

役員報酬審議会を開催

12月20日、第1回役員報酬審議会が開催されました。

この役員報酬審議会は規程に定められて設置する委員会で5名の委員で構成、手続きを経て選出された方々を組合長が任命し、任期は3年です。

本年度、新たに選任された委員により互選されたのは、委員長に安達進氏氏（豊葦）、副委員長に岸本保晴氏（光珠内町北）、委員は黄田英俊氏（上美唄）、今橋健太郎氏氏（豊葦）、梶秀美氏（岩見沢市峰延町）です。

J A役員の報酬額は総会の付議事項で毎年開催する通常総会に提案し、承認を受けることになります。また総会に提案する役員報酬の原案は組合長が役員報酬審議会に諮問し、役員報酬審議会が検討を行い、組合長に答申し、総会に議案を提出しています。

山口 昭次さん (88歳) 12月9日
北海 芳太郎さん (86歳) 11月30日
岩見沢市峰延町峰樺1区
美唄市峰延町峰樺1区

おくやみ申し上げます

JAへの就職希望者100%就職(令和5年度実績)

令和7年度第3回学生募集

●定員40名 ●男女共学 ●1才年 ●寮完備(個室) ●通学制開始

●受験資格:満27歳未満(令和6年4月1日現在)

大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込

●試験日:令和7年2月2日(日)

●願書受付:令和7年1月6日(月)~1月24日(金)消印有効

●オープンキャンパス随時開催中

JAグループ職員養成校



令和7年度より
通学制開始

一般財団法人 北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町43-1
☎0120-918-417 【JAカレッジ】で検索



年末年始の自動車事故発生時の連絡先

冬は交通事故が増加する傾向にあります。

12月31日(火)~1月5日(日)は下記へ連絡いただきますよう、お願い申し上げます。

JA共済アプリからなら連絡もスムーズです。
▼今すぐダウンロード



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう

曜日・時間帯	連絡先
月曜から金曜のJA営業時間	JAみねのぶ金融課 0126-67-2113
上記以外 24時間365日受付	自動車事故などJA共済事故受付センター フリーダイヤル 0120-258-931 レッカー移動・故障時の応急対応 JA共済サポートセンター フリーダイヤル 0120-063-931

※救急119、警察110のご連絡もお忘れなく。

(JAみねのぶ 金融課)

青年部だより

Vol. 12

With a
JA YOUTH
Smile

昨年度を振り返つて
青年部 部長 川 端 慶也



青年部 部長 慶也

川

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様には、平素より青年部の活動に対しまして、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度の青年部活動を振り返りますと、これまで青年部活動にご尽力されました5名の諸先輩方の勇退により29名で青年部活動が始まりました。

2月に行つたスノーメッセージでは、光珠内の田んぼに融雪剤を用いて、縦50M、横30Mの【峰】という文字を描きました。かなりの大きさで大変でしたが、数多くの盟友の参加もあり、盟友の団結力を感じると共に、峰延の地域や青年部をPRする事が出来たと思

います。

3月には、青年部のレクリエーション大会と懇親会を行い、盟友と職員の親睦を深めました。また、同月の学習会では「みねのぶにおける地域の課題 農業から街を盛り上げる関係作り」と題して、美唄市地域おこし協力隊の皆様に多数ご参加頂き意見交換会を行い、交流の少なかつた美唄市と青年部の連携を模索しました。

4月からは、営農専門委員会を中心となつて行つてている営農試験調査が始まり、昨年度から行つていた落花生の栽培工程などを模索した試験栽培を行い、成果は11月の青年大会で発表しました。今後、盟友の皆様には青年部だから出来る事、新しい事にチャレンジする気持ちが芽生えてくれたらと思います。

6月と10月に実施した農業用廃プラスチック回収においては農業用ビニールと農業用ポリの合計で43tの回収量になりました。野焼き防止や不法投棄を無くすと共に、リサイクルにも関心を持つて頂くことで地域が一丸となつてSDGsを推進していくこうという青年部

います。

3月には、青年部のレクリエーション大会と懇親会を行い、盟友と職員の親睦を深めました。また、同月の学習会では「みねのぶにおける地域の課題 農業から街を盛り上げる関係作り」と題して、美唄市地域おこし協力隊の皆様に多く参加頂き意見交換会を行い、交流の少なかつた美唄市と青年部の連携を模索しました。

J Aみねのぶ祭が開催されました。久しぶりの開催で手探りな状態でしたが、盟友が一致団結し成功させることができました。青年部のメインイベントでもあります綱引きでは、近隣青年部を招待して熱い戦いが繰り広げられましたが、みねのぶ青年部は準優勝となつてしましました。ただこのような機会に我々青年部として、地域のイベントを盛り上げる事が出来て大変嬉しく思つております。

また、今年度のファームレターにおいては例年ペーパーで作成していたものから変更し、小さなおぼり旗を作成しました。のぼり旗にはみねのぶ青年部のインスタグラムのQRコードを載せる事で読み取つて頂く形とし、みねのぶ青年部をPRしました。

9月10月の毎週土曜日に実施した屑米集荷では、品質が良い影響から集荷量は2119俵と少ない年でしたが、農協による有利販売に貢献する事が出来たと思います。10月20日には第2回びばい新米取穫祭を開催しました。昨年度にて昨年度の総括とさせていただき

います。

JAみねのぶ祭が開催されましたが、大成功を収めたと思つておられます。美唄の農産物をPRする場になり、自分たちの農産物を実際に消費者に販売できる良い機会となりました。

年間を通しての事業であります食育授業では、美唄市内のめぐみ幼稚園、アカシア幼稚園、進徳保育園、茶志内双葉保育園の4園と田植えと稻刈りの体験をしてもらいました。

農業の大変さや食の大切さを学んでもらいました。

昨年度は年明けの能登半島地震という暗いニュースでの年はじめでしたが、青年部活動においては、新しい取り組みを多く取り入れ、挑戦する事の楽しさや大切さを私自身多く学ばせて頂きました。学んだ事を次世代に繋いでいけるよう今後の青年部活動や営農活動に取り組んでいきたいと思つています。

最後になりましたが、重ねて組合員の皆様を始め、農協や各関係機関の皆様に青年部活動の益々のご理解とご協力をお願い致します。

新年のご挨拶
青年部 部長 荒井 翔悟



青年部 部長 荒井 翔悟

新年明けまして、おめでとうございます。

令和7年を迎えて、謹んでお慶び申し上げますと共に、平素より青年部活動に対しまして、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

過日、JAみねのぶ青年部第77回通常総会に於きまして、青年部長という職責を仰せつかりました。歴代の諸先輩方の功績を顧みますと、自分にその重責を全うできるか不安ではございますが、ご推薦いただきました皆様のご期待に添えるよう、精一杯努力していく所存でありますので、盟友並びに諸先輩方、また農協をはじめとする各関係機関の皆様には、ご指導ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、峰延農協の基幹作物である水稻は、春先から安定した気候に恵まれた

こともあり、収量・品質共に例年より良好に推移し、南空知の作況指數は103と、昨年とほぼ同様の数値となりましたが、生産者の肌感覚では豊穣の秋を迎えることが出来たのではないかと思います。麦、大豆に関しても、生育期の天候に恵まれ、品質・収量共に昨年度よりも高い水準で収穫を迎えられたのではないかと思われます。

農政に目を向けてみると、「農政の憲法」とも呼ばれている食料・農業・農村基本法が四半世紀ぶりに改正され、食料安全保障や環境への負荷の低減、農業の持続的な発展など、さまざまな観点から見直しが行われました。その他にも、生産資材の高騰による経営の圧迫、水田活用直接支払交付金の見直しへの対応など、稻作を中心とする本地域の農業を取り巻く情勢は依然として厳しい状況です。米価に關しては上昇傾向にあるものの、市場の今後の動向を注視し、より慎重な舵取りが求められる状況にあります。

このような情勢の中で我々青年部は、地域社会の担い手として、盟友一人一人の農業情勢に対する当事者意識を深め、青年部一丸と

なつて声を上げていかなければなりません。そのためにも、各種研修会や事業を通して様々なことを学習、実践し、農業者としての資質向上を測っていくことが必要不可欠です。学習会を開催し知識の向上に努め、懇親会やレクリエーション等で盟友の団結をより一層強めていきたいと思います。

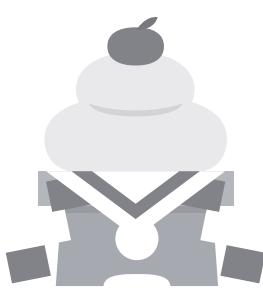
他にも、環境問題に対しまして、我々青年部は、クリーン農業に向けた使用済み農業用廃プラスチック回収の実施を行いました。組合員の皆様のご理解とご協力により、円滑な運営や分別等が徹底出来ております事を心より感謝申し上げます。

各種事業に対しましてご理解、応援を頂いております農協をはじめとする各関係機関の皆様、諸先輩の方々、盟友の皆様には、この場をお借りして厚く礼申し上げます。今後も、若手農業者である青年部にしか出来ないような活動を実践していきたいと思います。

最後になりますが、皆様におかれましては、今後とも、青年部活動に対しさらなるご理解、ご協力を重ねてお願い申し上げ、新年的挨拶とさせて頂きます。

**青年部総会で選任を受けた
令和7年度の役員体制**

部長	荒井 翔悟
副部長(会計)	渡辺 慶太郎
副部長(組織)	大友 翔平
副部長(営農)	渡辺 勇太
理事	吉仲 河野 準樹
監事	守山 太平



J A グループ北海道 農政NEWS ウェブサイトページの設置及びID・パスワードの設定について

アドレス：<http://ja-dosanko.jp/nousei/>



①農政のいま

- 農政や国際貿易交渉の現在の情勢について、お知らせします。

②活動報告

- J A グループ北海道が行っている農政運動等をご報告いたします。

③私たちの考え方

- J A グループ北海道で協議決定した政策提案内容についてお知らせします。

④各種政策まとめ

- 農林水産省からの予算・事業等についてお知らせします。
※農林水産省HPリンク 他
- J A グループ北海道が作成し、皆さんに知って頂きたいPR資料を掲載します。

○更新情報

- 更新情報は、JA北海道中央会公式LINEにてお知らせいたしますので、友達追加お願いいたします。

アドレス：<https://lin.ee/zkY09op>

2次元バーコード



○ID及びパスワードについて（9月11日10:00～）

- 農政NEWSウェブサイトを閲覧するために、下記IDとパスワードが必要となりますので入力願います。

ID nousei

パスワード hokkaido

※半角小文字入力願います。パスワードは、定期的な更新を予定しております。
更新は文書及びLINEにてご連絡いたします。

JAグループ北海道の農政活動強化に向けて

第4回「農政活動の仕組み」について

コロナ禍による農畜産物の需給緩和、肥料・飼料をはじめとする生産諸資材の価格高騰、気候変動の抑止に向けた環境負荷軽減の取組み、年々甚大化する自然災害による農地・施設等の損壊、深刻な労働力不足など、我々JAグループの努力だけでは解決できない課題が山積しております。

食料安全保障の強化、持続可能な北海道農業の確立のためには、我々の努力だけではなく、国の支援が不可欠であります。そのカギとなるのが農政活動であります。

農政活動とは、組合員一人ひとりの声をJA・地区で集約し、みんなの声として、農業・農村・JAに理解のある国會議員に対し、現場の実態を届け、その課題の解決につながる政策を実現してもらう一連の活動・運動であります。

令和5年度は、食料・農業・農村基本法の改正や、作目別の経営安定対策をはじめとする農林水産予算の確保に向け、JAグループ北海道では農政活動を展開しました。その結果、予算の確保をはじめ、さまざまな政策支援が実現しました。しかし、これですべての課題が解決する訳ではなく、生産現場には、まだまだ課題が山積しております。

生産現場の実態を届け、我々の求める政策を実現させるためには、国議員による国や行政への積極的な働きかけが重要です。そして、そのような議員を支えていくことも農政活動の柱の一つであります。

国会(政治)は数が力です。国を動かすには、国会に一人でも多くの農業やJAの理解者を増やすことが重要であります。そのため、我々JAグループの代弁者として、先頭に立って多くの国議員に働きかけ、農業やJAの理解者を増やし、まとめていくことができる議員、つまり、JAグループの代表議員が必要なのです。



【JAグループ北海道の農政活動強化に向けて】と題し、農政活動や参議院選挙の仕組みなどを、来年夏頃まで連載いたします。
次回(第5回)は、参議院選挙の仕組みについて紹介します。

現場の声

JA・JA職員(とりまとめ)

農政活動

農業や農村、JAに理解のある政治家に
現場の声や実態を届け、
支援する

政策の実現

東野ひでき公式
LINEアカウントへの
登録はこちらから

